

オール電化 & 太陽光 ビジネス塾

「継続は力なり」の 本当の解釈とは



倉田豊治(くらた・とよじ) ㈱サンユウ専務取締役。オリックスに4年、日本興亜損保に10年間営業マンとして勤務後、99年サンユウ創業。当初は本当に売れない日々で、2月の-2℃の中寒さで死にそうになったり、カードローン地獄も経験する。オール電化普及で次第に売れはじめ三菱電機・東芝などの関東地区販売実績で度々第1位を獲得。最近では文化放送・ニッポン放送などのマスコミにも出演。昨年はFMで毎週火曜日にビジネス番組も持つ。日経ホームビルダーなどの取材も受ける。現在、自身の経験を元に「いくつかのルールを守るだけで凡人でも短期間でダントツの成果を上げる営業ノウハウ」をテーマにビジネス塾を主催講演中。

「継続は力なり」という言葉は、ご存知の通り、小さな努力でもコツコツと積み重ねていけば、必ず成功につながるという意味です。

確かにこれは真実でしょうが、私が思うに、解釈の仕方にポイントがあるような気がします。

一般的に1つの努力をしたら必ず1つの成果が生まれて、次のモチベーションにつながるという解釈している人が多いのではないのでしょうか。

成功までのプロセスが、等間隔で一段づつ上がっていく階段のイメージです。

しかし、この考え方は実際の生活の中で実行してみたら、すぐに間違いであることに気付くでしょう。地域店の営業活動で例えれば、100件のチラシをまけば必ず何件かの反応があって販売につながり、次に120件のチラシをまいたら、その分だけ成果が得られるというわけです。世の中、そんなにうまくいくわけがありません。

だからといって、最初の活動で成果が出なかったから「そんなにうまくいくわけがないか」と諦めたり挫折するのも、これまた間違った考えだと思います。

ふっと浮上する瞬間

私は「継続は力なり」という格言のポイントは、努力の成果はすぐには得られないけど、それでも努力し続けると成果が表れるということにあるのだと思います。

図のようなグラフで表現すれば、階段のようにステップアップするのではなく、成果がなかなか出ないけれど、あるときに、ふっと違うステージに浮上するイメージです。

とはいうものの人間はそんなに強くありません。成果が表れずにいつまでも続けていると、不安になったり、迷ったり、心が折れそうになります。私も、そんな経験があります。

しかし不思議なもので、ずっとそんなことを繰り返していると「そろそろ成果が出てきそうぞ」という感覚が得られるようになるのです。「もうすぐかな」という感覚です。

もしくは、そもそも続けていた手法そのもの間違いに気付くこともあります。これは最初とてもショックを受けますが、そのときに違う方法を採用したからといって、まったくゼロからのスタートではないということを力説したいですね。

あることを継続して成果が得られずにほかの方法に変えたとしても、まったく何もしていない人と同じ地点からのスタートではないということです。

最初の間違った方法の蓄積が、次の違う方法のときにちゃんと生かされるのです。私も以前、何をやってもことごとく失敗し、なかなか成果が得られないという経験をしました。「自分は本当に才能がないんだな」と思うほどくじけそうになりました。

だけど面白いことに、そのときに失敗した経験が、別の機会で生きることがあるのです。「継続は力なり」には、とても奥深い意味が含まれているのではないのでしょうか。

●図 「努力」と「成果」のイメージ

